

# “Seoul ADEX 2019”に参加し “JA2021”をPR

2021年国際航空宇宙展（JA2021）のPR及び出展者勧誘のため、2019年10月15日（火）～20日（日）にかけて韓国ソウルにて開催された「Seoul International Aerospace & Defense Exhibition 2019（Seoul ADEX 2019）」に参加したので報告する。

## 1. Seoul ADEX 2019の概況

### (1) 開催概要

開催日程：2019年10月15日（火）～20日（日）

ビジネス・デー 10月15日（火）～18日（金）  
（4日間）

パブリック・デー 10月19日（土）～20日（日）  
（2日間）

開催場所：ソウル空港（空軍基地）  
（ソウル市郊外南東部）

主催者：韓国航空宇宙工業会（KAIA）  
韓国防衛工業会（KDIA）

韓国貿易投資振興公社（KOTRA）

韓国で最大規模を誇る本展示会は、1996年以降概ね2年に1回のペースで奇数年に開催されており、今回で12回目の開催となる。

### (2) 展示会の概況

会場は、最寄りのモラン駅（ソウル駅から地下鉄で約1時間）から徒歩約20分の距離だが、会期中は会場とモラン駅を結ぶシャトルバスが頻繁に走っており会場へのアクセスは良好である。

展示会は、前回の2017年同様に屋内展示（大型テント4張）、セミナー（大型テント2張）、屋外展示として韓国軍・米軍などによる航空機の飛行・地上展示、韓国軍による地上装備品等の展示、また、韓国企業・欧米企業の9社によるシャレー出展などから構成されていた。大韓航空開発の大型長時間滞空型UAVも実機が地上展示された。

飛行展示も最新の機種から民間のプロペラ推進のアクロバット機まで、21の型式の116機が参加しており。韓国空軍のブラックイー



KAIの提案する KF-X戦闘機（実大模型）

グルの編隊曲技飛行には多くの来場者が注目して人気を集めていた。

屋内展示は防衛関係が中心で、来場者もビジネス・デーは軍関係者が多くを占めていた、今回の目玉は韓国軍で配備が始まったF-35A戦闘機および初披露されたKAI社の提案する新戦闘機KF-Xの実物大モックアップとKF-X操縦席モックアップであり、KF-Xは特に注目を集めていた。

また、例年のように陸上装備の車両類もフルラインアップで展示されており、今年はHanwhaの新型兵員輸送車両並びにドローン飛行阻止車両〔レーダー、光学/赤外線で探知追跡を実施し、電磁波でドローンを飛行不

能にする車両（阻止システムは英国Blighter Surveillance Systemで設計・製造）〕に外国の軍人の姿が集中していた。

宇宙機器ではロケットのNURI-2関連の開発成果、衛星では製造中のKomsat-6, 7に加えて、新型の500kg級地球観測衛星バス（CAS-500バス）およびCAS-500ベースの新型C-band SAR衛星などが将来プロジェクトとして開発中をアピールしていた。なお、出展者、来場者ともに日本関連は非常に限られ、殆ど存在感はないように感じられた。

なお、展示会の出展者、来場者等に関する主催者発表値は以下のとおり。

#### Seoul ADEX 2019実績

		Seoul ADEX 2019	Seoul ADEX 2017	(参考) JA2016
出展者数	国内	333社・団体*	208社・団体	602社・団体
	海外	187社・団体*	178社・団体	210社・団体
出展者数 総計		430社・団体	405社・団体	812社・団体
参加国数		34ヶ国	33ヶ国	31ヶ国・地域
来場者数	ビジネス・デー	90,143人	79,291人	30,789人
	パブリック・デー	200,869人	181,019人	13,627人
来場者数 総計		291,012人	282,373人	44,416人

Seoul ADEX 2015公式招致者：48ヶ国から80グループ。

Seoul ADEX 2017公式招待者：53ヶ国から78グループ。

Seoul ADEX 2019公式招待者：48ヶ国から88グループ。

\*：閉会後の公式発表がないため、Web上の出展者数による。

(総計は閉会後の公式発表であり、合計はあっていない。)

#### 出展者数の推移

	2019年	2017年	2015年	2013年	2011年
出展者数 (社・団体)	430	405	386	361	314

出展者数は、前記の表のとおり順調に増加している。韓国製防衛装備品の売り込み先とみられる外国の軍隊へ招待代表使節が東欧・中東・アジアを中心に初日に数多く見られた。また、ビジネス・デーの公式来場者は90,143人と多いが、ビジネス・デーの後半は

トレード来場とは思えない学生等の来場者が増えていることと、期間を通して軍の隊員や家族の姿が多く見られたことから、本来のトレード目的の来場者は公式発表の数分の1ではないかと推測される。



韓国空軍 F 35A



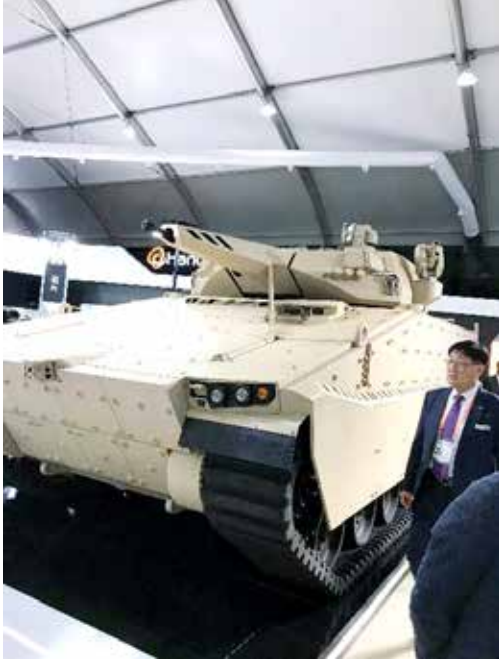
KF-X操縦席モックアップ



大韓航空 NG UAV



KIA（現代）ドローン飛行阻止車両



Hanwha 兵員輸送車両

Hanwha KRE-075 GGエンジン  
(LOX/Jet A-1)  
NURI (KSLV) -IIの1, 2段用に開発中

## 2. SJACの活動概況

SJACは、今回JA2021の出展誘致に重点を置き、主として欧米会社の展示会出展アジア担当へ飛び込み営業を行うため参加したが、JA2021に対する海外企業・団体の関心度は高く、有効な勧誘・告知活動が出来たと感じている。さらに、アメリカおよびドイツの展示会とりまとめ会社とJA2021の誘致に関する契約の調整や署名・締結を行った。また、JA2016から導入し、好評を得ているBCI社が運営するB to Bミーティングは本エアショーでも実施されていたが、ソウルでは低調でスペースの利用は殆どない様子であった。JA2021でもB to Bミーティング実施に向けBCI社と協議を始めているところである。

## 3. 所感

前述のとおり本展示会は「国を挙げた防衛産業展」であった。軍用の航空機、車両ともに韓国製の輸出に成功し拡大しており、戦闘機のKF-X、軽武装の新型兵員輸送車両などの新装備を着実に提案開発している。軍用装備開発の初期フェーズを、日本とは異なり民間企業が主体となってPR、推進している点の特徴である。KF-XはKAI社が、次世代UAVは大韓航空が、次世代戦車 Rotemは現代社が、兵員輸送車両はHanwha社が主導しており、空軍や陸軍は協力しているものの開発の前面に立ってはいない。

今回も2017年同様に「DUPEX」と銘打った軍民両用技術 Dual Use製品の展示会 (Korea Dual Use Product Exhibition 2019) が併催され、軍用との共用で製造される様々な製品 (服飾、靴、食品、調理器具、ロボット、電装品

など)を、屋内展示のうち一割程度の面積で行っていた。家電、半導体など電子部品や自動車に続けとの韓国政府の防衛航空宇宙産業への意気込みが展示会場のあちこちで感じられ、国家主導で産業を振興する意思を強く感じさせる。また軍および防衛航空宇宙に携わる国家機関の占める出展面積は広く、パブリック・デーに多く来場する国民へ軍や政府の広報の場として大きく利用している点はSJAC主催の国際航空宇宙展や世界で主要な航空ショーで見られる展示と異なる特徴である。

また、本展示会で韓国の中小企業は出展者数こそ多くはないが、日本各地の地域航空宇宙クラスターと事業範囲や手がける製品、利

用する技術は類似であり、韓国もボーイングやエアバスなどへの納品実績をうたっている。韓国のクラスターも着実に進歩し、日本のそれに間を詰めている様子が分かった。

公式数字の詳細は前回と違って入手できていないので感覚になってしまうが、前回2017年に比較すると韓国以外の企業・団体の総出展面積比率は下がっており、その分は韓国の軍や政府機関の面積が拡大し、従来どおりの屋内展示総面積になっている印象があった。また、初日の韓国外の軍関係者の招待使節の参加者数も前回より目立たない印象があって、参加人数はかなり減っている様に思われ、米軍の協力規模も目に見えて縮小したと感じた。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 国際航空宇宙展事務局 部長 櫻井 浩己〕